

1 部

学習サポート

各種申込締切について

- 『試験・スクーリング情報ブック2016』にてご確認ください。
 - ・ p. 4～5→学年暦　・ p. 22～25→通信教育部カレンダー
 - ・ p. 45～48→社会福祉士　演習・実習科目関連締切等
 - ・ p. 49～51→精神保健福祉士　演習・実習科目関連締切等

12 / 5 ～ 1 / 27 の追加・変更点

- 「特講（子どもの貧困）」スクーリング申込締切日
1 / 10 （開講は3 / 4・5 仙台）
※中止になった10 / 22・23の振替開講です。
※詳細は p. 30をご参照ください。

「老年心理学」の受講について

教員 MESSAGE

講師 吉川 悠貴

「老年心理学」を学習しているみなさん、こんにちは。

今回は、主に本科目のレポートとスクーリングについて、いくつかのことをお伝えしたいと思います。

まず、レポートについてです。

本科目に限らず、レポートの作成のために、みなさんが大変ご苦労されているということを、時おり耳にします。そこで、本科目での出題意図や、書き方のポイントを示したいと思います。

スクーリング受講者用のものを除けば、老年心理学のすべてのレポート課題は、①テキストや講義で学んだ内容を課題に沿って整理していただくことと、それをもとに②現実の具体的な生活との関わりや受講生の皆さんの意見・考察などを述べていただくこと、を意図した出題をしています。レポート作成にあたっては、まず各課題に沿ってこの2点を押さえた構成を考えていただくとよいと思います。

みなさんのレポートを拝見していて時おり気づくのは、上記の①と②のつながりが見えにくい場合があることです。①で知識として整理したことが、②において具体的な人間の生活にどのように表れているのか、またそのことに対して皆さんはどのように考えるのか、ということを意識して書くことができるとよいでしょう。とは言っても、あまり考えすぎると筆が滞ることになりかねません。そのようなときは、逆に②の具体的な生活や思いを、①の知識として説明してみる、という書き方をしてみるのもよいかもしれません。

次に、スクーリングについてです。

本科目のスクーリングの内容に対して、受講の当初違和感を持った、と

いう感想をいただくことがあります。特に、前半部分で人口動態や身体機能、疾患の説明があること、その次に認知機能に関する話題が続くことに對してです。受講前に想像していた「老年心理学」もしくは「心理学」のイメージと異なる、という趣旨がうかがえます。しかし、高齢期のパーソナリティの変化や、心理的適応、死の問題、認知症の心理学的理解といった後半に並ぶ内容を適切に理解するためには、必要な準備だと考えています。加えて、「心理学」には大きく「基礎心理学」と「応用心理学」という分野があります。「老年心理学」は「応用心理学」として捉えられることが多いと思いますが、「基礎心理学」からの知見を土台にしないと、感覚的な理解にとどまってしまう可能性があります。このような意図からスクーリングの講義構成を行っていますので、ぜひご理解いただければと思います。

とはいえ、こうした構成によってみなさんの受講意欲が減じられては元も子ありません。講義内容間のつながりがなるべく感じられるよう、今後も検討を重ねていきたいと思っています。

スクーリングに参加される皆さんの熱意には、毎回とても感服するとともに、感謝しています。私自身にとっても学びの場であり、楽しみにしています。